

[様式 14]

(対象事業：ミュージアムを核とした地域文化資源の整備・活用に係わる事業

ミュージアムを核とした地域の人材・組織の育成・連携・活用に係わる事業

地域振興と一体になったミュージアム事業)

事業名：八郎潟干拓事業により生まれた地域の歴史・文化資源を活用し、それらを次世代に伝える教育教材開発・文化交流促進事業

事業者名：八郎潟干拓事業教材開発委員会

連携事業館名：大潟村干拓博物館

住所：秋田県南秋田郡大潟村字西 5-2

TEL: 0185・22・4113

FAX: 0185・22・4115

HP: <http://www.ogata.or.jp/ac/museum/>



#### ①施設概要

日本最大の干拓事業「八郎潟干拓」を記念し、八郎潟干拓の歴史と干拓事業及び村存立の意義を後世に伝えるとともに、干拓地の農業や自然、芸術文化を干拓地で育まれた文化資源として展示紹介している博物館。平成 12 年 4 月開館、同年 8 月博物館登録。博物館の各種事業を村民や村内の各団体と協働で実施していることが館の大きな特徴である。

#### ②事業の意図目的

博物館収蔵資料を活用し、干拓地大潟村の歴史に親しみ理解し、永く継承していくために「八郎潟干拓と大潟村の歴史」をテーマに、教育教材としての創作すごろくを開発・制作する。また、干拓地大潟村の農産物を利用し、博物館・生産者・村内生涯学習団体が連携・協力し、その魅力創出を試み文化交流を促進する企画展を実施する。

#### ③事業の概要

「八郎潟干拓と大潟村の歴史」をテーマに、地域の歴史に親しみ、後世に伝える目的で、大潟中学校の生徒（3 年生のうち選択社会受講生 27 名）と地域住民が協働で、創作すごろくの開発・制作を行った（平成 19 年 7 月 12 日～10 月 25 日、計 11 時間）。完成した原案をもとに、すごろくを 1,000 部印刷した。村内全世帯に配布した。

博物館・生産者・村内の団体がいっしょに農産物の魅力創出をする企画展「Polderlip Wave 2008 大潟村チューリップ作品展」を 2008 年 2 月 15～17 日に実施した。村産チューリップ 53 品種 3,000 本を用い、アイディアを出し合い、切り花展示、押し花展示、生け花展示を行ったほか、押し花体験、生け花体験、栽培ハウス見学ツアー等の体験・交流事業を実施した。

#### ④事業の制作物及び報告書等

事業の制作物 大潟村歴史すごろく、大潟村歴史すごろくクイズゲーム

#### ⑤参加者状況

参加者人数：延べ 2,006 名

内訳：すごろくづくり：のべ 37 名（生徒 27 名、支援者 10 名）

チューリップ作品展：のべ 1,969 名（支援者 62 名、入館者 1,907 名）、

## (I) 事業の実施状況について

### ①教育教材「大潟村歴史すごろく」の開発

すごろくは、大潟中学校において3年生が平成19年度の選択社会の授業（平成19年7月12日～10月25日、計11時間）において取り組んだ。授業支援には前半に大潟村案内ボランティアが歴史指導を行った。また授業を通じて村民がコーディネーターを務め、円滑に授業が進められるよう配慮した。すごろく原案およびクイズ原案は10月25日に完成し、大潟中学校小体育館で発表した。また、村の広報等ですごろく創作の取り組みが紹介された。すごろく創作の取り組みと完成したクイズについては、干拓博物館で企画展「大潟村歴史クイズにチャレンジ」を平成20年1月13日（日）～2月11日（月）まで開催し、これら一連の取り組みの過程及び成果について一般村民に広く紹介した。

すごろく原案にもとづき、すごろくを1,000部印刷した。すごろく盤の大きさはB2サイズとし、「歴史」「生活」の2テーマで、裏表両面を使用した。クイズの小冊子とともにすごろくを平成19年12月25日に村内全世帯に配布した。また、1月19日（土）には村民センターで「昔っこ遊び」が開催され、昨年創作した「大潟村歴史かるた」とともに、多くの参加者がすごろく遊び、かるた遊びを楽しんだ。また、クイズはパソコンで楽しめるように原案をもとにデジタル化し、以下の「八郎潟の干拓と大潟村の歴史」ホームページで公開した（<http://cs.ogata.or.jp/~museum/>）。



上：「生活」「歴史」2グループに分かれ、大潟村案内ボランティアから歴史を学ぶ。



左：すごろくの原案を検討中。中央は校長、手前のコーディネーターが意志決定支援。  
右：大潟中に関係者を招いて創作すごろくの原案を披露。お披露目の後は早速みんなですごろく遊びをした。



②企画展「Polderlip Wave 2008 大潟村チューリップ作品展」の実施

【実施期間と入館者】 平成 20 年 2 月 15 日（金）～17 日（日） 1,906 人

【利用予定のチューリップ品種及び数量】 53 種, 3,000 本

【企画展の事業内容】

- ・チューリップ切花展示 (実施者：チューリップ生産農家)
- ・チューリップ生け花展示 (実施者：華道池坊田村教室)
- ・チューリップ押し花展示 (実施者：大潟村押し花同好会)
- ・チューリップ栽培ハウス見学ツアー (実施者：生産農家、大潟村案内ボランティア)
- ・ミニ生け花チャレンジ体験 (実施者：華道池坊田村教室)
- ・ミニ押し花チャレンジ体験 (実施者：大潟村押し花同好会)

【展示及び体験教室の状況】



上：生産者がチューリップ 53 品種を展示。オランダをイメージした撮影コーナー設置。



左：生け花チャレンジ体験 参加 60 名、右：押し花チャレンジ体験 参加 150 名。



左：チューリップ栽培ハウス見学ツアー。6 回実施、参加 183 名。

右：展示会場で来館者の質問に答える生産者。

## (2) 地域との連携について

今回は以下の役割分担のもと、連携・協力して事業がすすめられた。

### ①教育教材「大潟村歴史すごろく」の開発と活用

協力者・組織	人数	役割分担
大潟村干拓博物館	2 人	企画立案作成、マネージメント一式
大潟中学校 3 年生選択社会受講者	27 人	すごろく原案創作、すごろくクイズ創作
大潟村案内ボランティア	8 人	中学生に村の歴史を指導
すごろくづくりコーディネーター	2 人	すごろく原案創作の際の意志決定支援
入植者の後継者	1 人	パソコンでのすごろくクイズゲーム創作
大潟村壮友会等	約 10 人	昔っこ遊び (すごろく遊び、かるた遊び)

### ②企画展「Polderlip Wave 2008 大潟村チューリップ作品展」の実施

協力者・組織	人数	役割分担
大潟村干拓博物館	10 人	企画立案作成、マネージメント一式
O. F. S (チューリップ生産者団体)	12 人	チューリップ栽培、チューリップ提供、ハウス見学ツアー、来館者対応
華道池坊田村教室	15 人	生け花作品展示、生け花体験実施
大潟村押し花同好会	6 人	押し花作品展示、押し花体験実施
大潟村案内ボランティア	4 人	チューリップ栽培ハウス見学ツアー
大潟村立大潟幼稚園年長組	約 30 人	創作チューリップイラスト描画
シルバー人材センター・村民有志	5 人	博物館前にチューリップ雪像創作

## (3) 成果物について

### ①大潟村歴史すごろくセット 1,000 セット (村内外関係機関・村内全世帯配布)

内容：大潟村歴史すごろく (B2 サイズカラー両面)、すごろく 2 個、コマ、

大潟村歴史すごろくクイズ冊子

### ②大潟村歴史すごろくクイズ パソコンゲーム



左：大潟村歴史すごろくの表「歴史編」、マス目の数は 42

中：大潟村歴史すごろくの裏「生活編」、マス目の数は 41

右：封筒 (左上)、クイズ冊子 (右上、クイズ 80 問に解説)、コマ (右下)、さいころ



#### (4) 参加者の反応（アンケートや感想のほんの一部を抜粋した）

##### ①教育教材「大潟村歴史すごろく」の開発

○選択社会受講生「すごろくづくりを通して村の歴史を詳しく知ることができた。村ができてからまだ40年しかたっていないけれど、奥の深い歴史があり、たくさんの苦労があった今の歴史があることもわかった。」

○大潟中学校長「準備や授業の進め方、生徒とのかかわり方などに昨年の成果や反省がよく生かされていたと感じました。すごろくのルールや遊び方に、生徒の考えを引き出してくださっているのも、とてもうれしかったです。」

○案内ボランティア「中学生、入植二世、先生方みんなが真剣に取り組んで、みんな仲良くなれたこと、やればできると感じました。中学生も自分たちがやっていると感動していると思います。村の歴史を学んで、村に愛着を感じたと思います。」

○コーディネーター「ボランティアさんのお話を聴くことで、そのときの大変さなど身近に感じられた。年代に関係なくやろうという、一体感・達成感があった。」

##### ②企画展「Polderlip Wave 2008 大潟村チューリップ作品展」の実施

○チューリップ生産者「商品としてのチューリップを目にすることはあっても、生産現場をみる機会のない一般の方には、栽培ハウス見学ツアーは目新しいものであった。生産者に対して質問も活発に行われ、チューリップに対して知識を高めていただけたと感じている。また、生産者とお客様がお互いの顔を知ることができるこのような企画は、今後私たちの営農活動のヒントになると思う。生け花の展示では、管理が難しいといわれるチューリップをひとつの作品に仕上げていただき、大変すばらしく、生産者としても大変うれしい。押し花作品も、ドライフラワーとは思えない鮮やかな作品の数々だった。また、体験教室の講師になっていただいた皆さんにご苦勞をおかけした。」

#### (5) 芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

「八郎潟干拓事業と大潟村の歴史を後世に永く伝える」ことは、干拓地大潟村の地域的課題である。その課題を解決するため、中学校・博物館と地域住民が連携・協力し、「すごろく」という教育教材開発に取り組み、活動の成果品を直接住民に還元した。昨年度に引き続き、学社融合型の事業として行うことができた。このことにより、学校と地域社会との間で地域的課題に対する問題意識の共有をはかることができた。また、「すごろく」を地域住民に還元できたことにより、事業を実施する意義が広く村民に周知することができ、昨年度制作した「かるた」とあわせ、家庭で遊びながら地域の歴史に親しむ機会を設けることができ、地域の歴史について家族間で共有し、世代間交流を促進することができたと思われる。なお、中学生がすごろくを創作したことが、地域住民に地域の歴史を身近に感じ、振り返るきっかけの一助になったと思われる。

学習支援者である大潟村案内ボランティアは、中学校での学習指導において自分たちの活動の意義を感じ、主体的に考え工夫し取り組んでいただいた。また、すごろくづくりコーディネーターも、入植世代である案内ボランティアの熱意をくみ取り、中学生のすごろく創作の支援、特に意見の集約や意志決定等のマネジメントに力を発揮していただいた。コーディネーターがいなかったらすごろくは完成しなかったと言っても過言ではない。立場の異なる多くの方々が目標を共有し、その目標の実現に向けてそれぞれが創意工夫して実践することができたことは、村にとって非常に大きな財産となった。



企画展「Polderlip Wave 2008 大潟村チューリップ作品展」は、地域の農産物のチューリップの魅力創出に生産者・博物館・村内の生涯学習団体が連携・協力して取り組み、企画展示事業を実施し、地域の農産物の魅力を地域住民・来館者にPRしたものである。本事業は魅力創出に関わる村内の各団体が直接参加体験型事業を実施できたことが大きな特徴であり、どの団体も多くの参加者の交流が深められ、そしてチューリップを通し、それぞれの団体の活動分野の魅力を伝えることができ、充実感を得ることができた。また、博物館に隣接する農産物直販施設「産直センター潟の店」で、企画展にあわせて「産直まつり」が初めて開催され、多くの客で賑わった。今回支援いただいたことにより、地域振興並びに活性化に大きく寄与することができたと考えられる。

## (6) 新聞記事等

### ○新聞記事

秋田魁新報朝刊

平成 19 年 9 月 19 日

地域版

秋 田 魁 新 報 朝 刊

2007 年(平成 19 年) 9 月 19 日 水曜日

**大潟中**

「創作すごろく」は千  
拓博物館が村の歴史を後  
世に伝えると企画。文  
化庁から十九年度の芸術  
拠点形成事業に採択され  
た。すごろくの大きさは  
はるかに大きい。開館使  
に作製する。さらに、村  
したタイプ形式の助手も  
の授業を使い、大潟村案  
している。

## 村史すごろくに凝縮

大潟中学校(小松  
陸子校長、百七人)  
の三年生(十七人)が  
「選択社会」の授業  
で住民と協力し、八  
郎湖千拓と村の歴史  
「すごろく」に「創  
作すごろく」作りを  
取り組んでいる。升

目には村千拓博物館  
収蔵の写真などを使  
い、写っている事柄  
に関するエピソード  
を冊子にまとめる。  
十月下旬には完成予  
定で、すごろくは村  
内の書に配布され  
る。

### 住民と協力し創作



大潟村案内ボランティアの会のメンバーか  
ら村の歴史を学ぶ生徒たち＝大潟中学校

内ボランティアの会(尾  
倉博典会長)の協力の下、  
村の歴史や生活の変化を  
学習中。授業では同会の  
メンバーが資料写真を示  
しながら、千拓前後の八  
郎湖や入植指導所跡の  
様子、初めての成人式、  
入植後の高農など思い出  
る話を交えながらよく説  
明した。

今後、生徒たちは昇目  
に使う写真や内容を決  
め、本格的に村の歴史を  
凝縮した「創作すごろく」  
作りに取り掛かる。工藤  
浩君は「これまで村の歴  
史について学ぶ機会が少  
なかったのが面白。四  
八裏書の村の様子に興味  
がある。すごろくは村の  
人たちに楽しんでもらえ  
るようになりたい」と語  
った。

開拓博物館は「村発足四  
十年を超え、世代交代が  
進む草創期への関心が薄  
れつつある。当時の様子  
や成り立ちなど村の歴史  
を後世に伝えたい。昨年  
に作ったかたときわ  
せ、楽しみながら歴史を  
学んでもらいたい」と話  
している。

- |         |                  |                         |
|---------|------------------|-------------------------|
| 秋田魁新報   | 平成 19 年 8 月 17 日 | 社説「芸術拠点形成事業 情報発信し地域と共に」 |
| 秋田魁新報   | 平成 19 年 11 月 1 日 | 地域面「大潟版すごろくできた」         |
| 秋田魁新報   | 平成 19 年 11 月 2 日 | コラム地方点描「すごろくで遊ぶ」        |
| 河北新報    | 平成 20 年 1 月 3 日  | 秋田面「すごろくで村の歴史学ぶ」        |
| 秋田魁新報   | 平成 20 年 2 月 16 日 | 地域面「チューリップ色鮮やか」         |
| 毎日新聞秋田版 | 平成 20 年 2 月 17 日 | 秋田版「大潟・春呼ぶ 60 種」        |
| 北羽新報    | 平成 20 年 2 月 19 日 | 地域面「チューリップ色鮮やか」         |

### ○テレビ、関連誌等

NHK 仙台放送局「情報テラス東北 美術館・博物館情報」

平成 20 年 2 月 12 日 11:05~11:30 25 分放映